



いくせい通信

Smile up!

～青少年のSNS規制～

2024.09.24

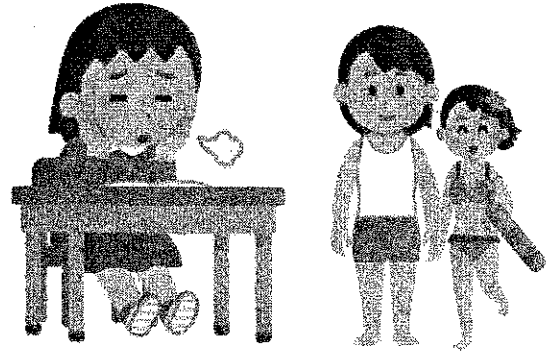
No. 6

酒田市青少年指導センター
酒田中央西町2-59
TEL 0234-24-2901

ちょっと前なら「実りの秋」というと、“うろこ雲”“芋煮会”“新米”、そして少し冷たい空気の朝晩というイメージがあったと思いますが、今年も全国的には残暑が厳しすぎる秋を迎えているようです。さらに、「令和のコメ騒動」も勃発し、何となく落ち着かない、気ぜわしい今日この頃です。

オーストラリアの青少年SNS規制

9月上旬、オーストラリアの首相が、**子どものSNS利用を禁止する法案**を年内に提出する方針を表明しました。これは、出会い系サイトなどを介した性被害を防止するとともに、対面の遊びやスポーツへの参加を促すことをねらったことのようにです。



こういう動きは、すでに世界各国で動き始めていて、アメリカでは50州のうちの35の州で禁止や規制の法案が成立したり審議されたりしているということです。

ただ、規制の動きをつくるためにプライバシーを脅かす恐れのある法案を通さなければならなくなったり、ネット上での言論の自由を制限するとして法案の差し止めを請求されたりしているところもあるようです。

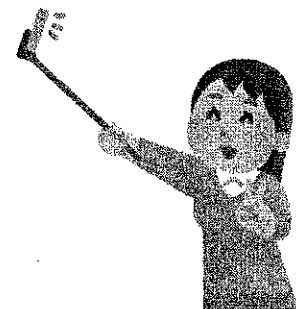
もちろん我が国にもそういう法律が平成20年に成立しています。「**青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律(青少年ネット規制法)**」で、

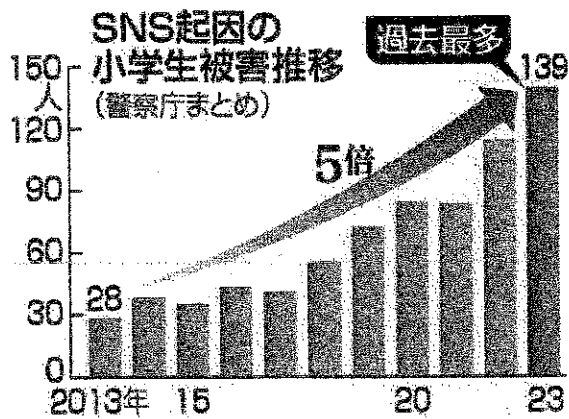
18歳以下の青少年がインターネットを利用する際、暴力、アダルト、出会い系、薬物といった有害情報に触れる機会を減らすことを目的に作られた法律

です。その後、平成29年6月に改正され、平成30年2月から施行されています。主な改正点は、18歳未満の者が携帯電話を契約、使用する場合は、フィルタリングの導入を条件とすることや、申込時に携帯電話事業者はフィルタリングの説明をすることなどが義務付けられました。

インスタグラム、18歳未満の制限強化

アメリカのメタ社(旧フェイスブック)が、先日、ネット交流サービス(SNS)のインスタグラムで、**18歳未満の利用を制限する新機能**を発表したとニュースになりました。





これも、未成年の性被害防止のための対策強化を、アメリカ議会が強く迫ったためです。日本の青少年の反応は、“いたしかたない”という声もあれば、これまでの機能が使えなくなり“困る!”という意見もあるようです。

このような対策が、徐々にではありますが取られてきているにもかかわらず、左のグラフを見てもわかるように、**子どもたちのネット上のトラブルや被害は増えるばかり**というのが現状です。

ただ、子どもたちのインターネットに係る問題は、有害情報に関するものだけでなく、いじめなど人間関係や課金などお金に関するもの、近視や依存症など健康に関するものなど多種多様です。しかも、低年齢化がますます進んでいるのです。

なぜそんなにネットの世界にのめり込むのか

では、なぜ、子どもたちは、というか大人も含めて、スマホを手放せなくなってしまうのでしょうか。電車に乗れば乗客が、病院に行けば順番待ちの人々が、右の家族のように本来なら家族団らんであるはずの家族がです。

アンデシュ・ハンセン氏(「スマホ脳」「最強脳」の著者)は、人間はその歴史の99.9%の時間を採集と狩猟で過ごしてきたと述べています。ですから、デジタル時代となったこの超スマート社会においても、人間の脳は相変わらず「**サバンナ脳**」だと言っています。つまり、遠くにいる獲物を見つけ狩りをし食べ物を得てきた者だけが生き延び、遠くの物がよく見え、あるいは注意深くなくて危険な生物を近づけてきた者たちは滅びてきたわけです。

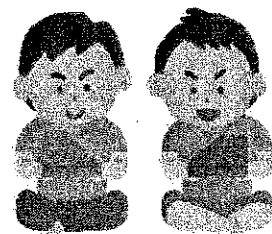
人間が生き延びるために必要だったサバンナ脳は、常に**新しいもの好き**で、特に「**もしかしたら**」「**かもしれない**」という**状況をとても好む**のだそうです。食糧があまりない世界に

いたわれわれの祖先には、新しい情報を得ながら、少しでも可能性が高いものに心(脳)を動かされる仕組みが出来上がっていったと言われています。

この仕組みには「**ドーパミン**」という脳内物質が関わっているようですが(詳しくは「スマホ脳」等をお読みください)、このドーパミンが脳内にいかに持続的にあふれてくるかを研究して作り上げられているの



が、われわれが今手にしているスマホであり、Instagramなどのアプリであり、子どもたちが止められないでいるゲームであるわけです。これじゃ、簡単に止められるわけがありません。



このようにスマホやゲームの会社も、SNSなどのアプリを手がける企業も、自分の会社がこれからも発展し持続的に利益を生み出すように、行動科学や脳科学の専門家をたくさん雇い入れて商品を作り世に出しています。

ところがです。旧フェイスブックの「いいね」の機能をあみ出したローゼンスタインも、アップル創業者のスティーブ・ジョブズも、マイクロソフト社を創業したビル・ゲイツも、そしてIT企業のトップにいる方々の多くは、わが子にスマホやSNSを使わせなかったり制限したりしているのです。それは、子どもに多大な悪影響(依存)があることがわかっていたからです。われわれ消費者がますますのめり込んで、そしていつまでも自社のものを使ってもらうために、つまりは会社の利益のために、そういう企業はどんどん新しいものを作ったり改善したりしていつているのにです。

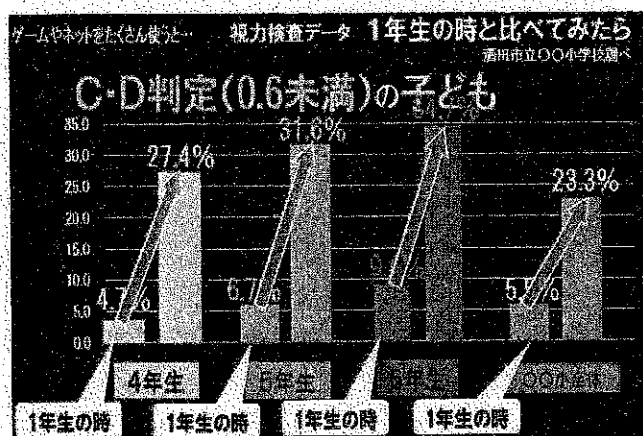
4人に1人がネット・スマホ・ゲーム依存症!?

今年の青少協だよりNo.2でもお伝えしたように、子ども家庭庁の令和5年度の調査では、日本の高校生の1日あたりのネット接続時間の平均は、何と6時間14分。平均ですから多い高校生は7時間も8時間もスマホを使っているのです。現代の中高生の4人に1人がネット依存かその疑いがあるという調査もありました。

さまざまなリスクを知り、自分で自分をコントロールできる、あるいはしようとしている子どもたちはともかく、多くの子どもたちは、このままではスマホ(ゲーム)依存症に近づいているのではないかと思います。

子どもたちの視力も危機的

右のグラフは、ある学校の4~6年生のうち視力が0.6以下のデータです。今の視力のわきには彼らが1年生の時のデータも載せています。ご覧になるとわかるように、学年が進むにつれて、子どもたちの目はどんどん悪くなっていきます。その原因は、今の生活の中では「近業」が多くなっているためだと言われています。



先ほどの「サバナン脳」の話でも述べたように、人類は遠くの物を見て自分の命をつないできた歴史があります。近くのものばかり見る体の仕組みにはなっていないようです。ですから、目が悪くなってしまふのは、ある意味必然なのかもしれません。実際WHOでも、西暦2050年には世界の人口の半分以上が近視になると推測しているようです。

SNS安全・安心講座では

青少年指導センターで行っているこの講座は、当然ですが“スマホはするな！”という内容ではありません。まず、いんなりリスクを子どもたち(保護者等の親・大人)が知ることが第一のねらいです。Society5.0の超スマート社会に向け、ネットと無関係で生活していくこと自体難しいでしょう。しかも、今起きているさまざまな問題や事件・事故はこれからもしばらく続きます。そんな日々の中、事件などに巻き込まれず、どうにか生き延びていくには、それこそわれわれ人間の脳が大好きな「新しい情報」が必要ですし、「もしかしたら」と考えることが重要です。そんな新しい知識を得ながら、自分らしくいきいきと生きていくにはどうしたらいいか考え、リスク評価(判断)し、行動していくこと…つまり「自立・自律」することの大切さを理解してもらうのが最終目標になっています。もちろんリスク回避するにはどうするかを知恵も、わかる範囲でお伝えしています。

センターは、これまで50回以上の授業・講座を行ってきました。しかし、まだおじゃまできていない学校もあります。また、一度行った所でも、以前の指導内容は古くなっているかもしれません。子どもたちだって、そして技術や時代だって日進月歩で変化しています。できる限り最新情報をもとに、子どもたち自身がリスクを考え、自分の行動を判断し、自立への道を歩めたらいいと考えます。今後もどうかご活用ください。

ごそんじですか? 「保護司会」

新コーナーです。青少年指導センターでは、現在も週に何回か街頭指導をしています。センターの職員だけでなく、酒田市内の関係する団体にもお願いしています。その団体がどんなことをしているのかをご紹介します。今回は「保護司会」です。

保護司は非常勤の国家公務員で、犯罪や非行をした人たちが再び罪を犯すことのないよう、その立ち直りを助けたり犯罪防止の啓発活動に取り組んだりといった更生保護活動を展開しているボランティアのみなさんです。


- 保護観察になった人への助言や指導
- 刑務所や少年院等を出所した後の生活環境の調整
- 地域での犯罪予防のための啓発・宣伝活動 など

酒田市新橋1丁目に「酒田飽海地区保護司会館」があります。



「社会を明るくする運動」に取り組むみなさん

カンガエル算数(New)

先月のお題(円柱の体積を求められるレベルなのかあ?いや…)  同じ大きさの箱に入っている3種類のケーキがあります。どのケーキが一番お得でしょうか?(箱は正方形、ケーキはどれも同じ高さの円柱の形をしています) < 答えの例 >

体積を比べればどれも同じです。正方形の一辺の長さを伝えることで、子どもたちは何度も円柱の体積を求めることになります。味気ないドリルをするより楽しみがあるでしょう?“いや、先生! クリームの量が違うんじゃない?”と表面積にこだわるかもしれませんし、それはそれで思考や技能を鍛えることになりそうです。



問題の図をよく見るとわかるのですが、真ん中の1つの円の面積と、左の大きな円の面積の4分の1の面積は同じです。当然ケーキの体積も同じです。では大きなケーキを4分の1にした場合、クリームの量はどのくらいでしょうか?



今月のお題(1年生の問題です) どうしやが4だいとまっています。3だいくると、ぜんぶでなんだいに なりますが、 ※こんなカンタンな問題の何が「モンダイ」なのでしょう?